

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と考察

兵庫小学校

令和5年度全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため、国が実施しているものです。

兵庫小学校では、この調査結果を把握・分析し、成果と課題を検証することによって、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てていきます。

## I 調査の概要

### 1 調査の対象

小学6年生

### 2 調査の内容

#### ①教科に関する調査（国語・算数）

- ・調査する学年の前学年までに含まれる指導内容が原則
- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等
- ・知識、技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力

#### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

### 3 調査実施日

令和5年4月18日（火）

## II 調査結果

### 1 国語

#### ①平均正答率について

全国の平均とはほぼ同等の結果であったが、福井県の平均よりはやや下回った。

#### ②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、およそ平均数正答している児童（9～11問）の割合が高い。正答数が多い児童（12～14問）の割合は、およそ低い。

### 2 算数

#### ①平均正答率について

全国及び福井県の平均をともに、やや上回った。

#### ②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、正答数が多い児童（13～14問）の割合が高い。

### Ⅲ 分析と考察

#### 1 結果概況

国語では全国の平均正答率とほぼ同等となり、算数では全国及び福井県の平均正答率をやや上回りました。ただし、設問によっては全国及び福井県の平均正答率を下回る項目もあります。その他、よい傾向として、無回答率が非常に低いことが挙げられます。

#### 2 教科別考察

##### ① 国語

「良好」であること
○原因と結果など情報と情報との関係について理解する（本校 90.0% 全国 64.7%） ○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する（本校 100.0% 全国 90.0%） ○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う（本校 95.0% 全国 93.1%） ○文章の種類とその特徴について理解している（本校 85.0% 全国 79.8%） ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる（本校 80.0% 全国 70.2%）
「課題」であること
△図表やグラフから読み取った情報を用いて、学校の米作りの問題点と解決方法を分かりやすく書く (本校 30.0% 全国 26.7%) <原因> ・問題文で指定された条件を満たしつつ、限られた字数で文章を書くことに課題が見られます。 ・複数の資料から必要な情報を選び出し、文章にまとめることに課題が見られます。 <課題解決のために> ・国語だけでなく他の教科でも、授業で学んだことや学習用語の意味を短くまとめて書く機会を増やしていきます。 ・100字程度で作文を書く練習をしていきます。その際、次のことを意識しながら取り組むようにします。 ①説明文や新聞記事などを要約する際に、どんなキーワードを入れるとよいかを考え、それらを使って分かりやすくまとめること。 ②接続語を使い、筋道を立てて文章を書くこと。

△資料を読んだ人が、その資料の情報をどのように整理したかについて理解している

(本校 50.0% 全国 62.0%)

<原因>

- ・問題を解く上で、資料のどこに着目するとよいか分からなかったことが考えられます。また、資料の中の不必要な情報に着目し、それを手がかりにしたため、誤答につながったことが考えられます。
- ・普段のテストより問題文の量が多く、限られた時間の中で速く正確に読み取ることが難しかったと考えられます。

<課題解決のために>

- ・国語だけでなく他の教科でも、自分が主張したいことを最初にしっかりと決め、それを論じるのに必要な情報を集め、文章にまとめる学習を繰り返して行きます。また、友達が書いた文章と読み比べることで、自分の考えとの共通点や相違点に着目させるようにしていきます。
- ・文章を読むことに慣れさせる必要があります。朝学習では目標のページ数を決め、集中して読書をしたり、学年に応じたさまざまなジャンルの本も手に取ったりするよう指導していきます。

## ② 算数

「良好」であること

○二次元の表から、条件に合う数を読み取ること…二次元の表から読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ問題 (本校 90.0% 全国 64.6%)

○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えると… $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の十の位に当たる式を選ぶ問題 (本校 85.0% 全国 47.6%)

「課題」であること

△高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること…テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く問題 (本校 10.0% 全国 20.8%)

<原因>

- ・面積を求めるために計算しようとしたが、高さの数値の記載がないために計算ができず、比べられないと判断したと考えられます。
- ・わけを説明する問題に抵抗があることが考えられます。

<課題解決のために>

- ・補助線などを図形に描き入れるなどの活動を通して、高さの定義を再度確認します。
- ・具体的な数値がなくても、底辺と高さが同じであれば同じ面積になることを繰り返し復習します。
- ・具体的な長さが分からない場合にいくつかの数値を当てはめて考える活動や、ICT 機器を活用し、図形を動かして等積変形のイメージを捉える活動を行います。
- ・文章でやり方やわけを説明する問題に取り組むことで、論理的な思考を養います。

△百分率で表された割合について理解している…示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ問題 (本校 35.0% 全国 46.0%)

<原因>

- ・割合の概念が理解できていないことが考えられます。
- ・計算せずに、数字だけを見て答えた児童もいると考えられます。
- ・生活体験の中で、具体的なイメージがつかめていないことが考えられます。

<課題解決のために>

- ・抽象的な問題でも、生活の中での場面などに置き換えて、具体的に考えられるように指導していきます。
- ・いろいろな数を想定して、具体的なイメージをわかせるような問題や活動を取り入れていきます。
- ・答えを出すときにどういう根拠でその答えになるのかを考え、言葉や文章で表現できるよう指導をしていきます。